

水稻新品種「ときめきもち」の主要特性

津田直人・太田久稔・山口誠之¹⁾・福嶋 陽²⁾・梶 亮太³⁾・中込弘二⁴⁾・片岡知守⁵⁾・遠藤貴司⁶⁾・田村泰章⁷⁾
(農研機構東北農業研究センター・¹⁾ 農研機構次世代作物開発研究センター・²⁾ 農研機構食農ビジネス推進センター・³⁾ 農研機構北海道農業研究センター・⁴⁾ 農研機構西日本農業研究センター・⁵⁾ 農研機構九州沖縄農業研究センター・⁶⁾ 宮城県古川農業試験場・⁷⁾ 国際農林水産業研究センター熱帯・島嶼研究拠点)

Characteristics of a new glutinous rice cultivar “Tokimekimochi”

Naoto TSUDA, Hisatoshi OHTA, Masayuki YAMAGUCHI¹⁾, Akira FUKUSHIMA²⁾, Ryota KAJI³⁾, Kouji NAKAGOMI⁴⁾, Tomomori KATAOKA⁵⁾, Takashi ENDO⁶⁾ and Yasuaki TAMURA⁷⁾

(Tohoku Agricultural Research Center, NARO・¹⁾ Institute of Crop Science, NARO・²⁾ Agri-Food Business Innovation Center, NARO・³⁾ Hokkaido Agricultural Research Center, NARO・⁴⁾ Western Region Agricultural Research Center, NARO・⁵⁾ Kyushu Okinawa Agricultural Research Center, NARO・⁶⁾ Miyagi Prefectural Furukawa Agricultural Experiment Station・⁷⁾ Japan International Research Center for Agricultural Science)

1 はじめに

糯米の生産は従来から小規模・分散という傾向が強く、豊凶差による需要と供給の不均衡が起きやすいため、長年、収量の安定化が課題とされ(宮入ら 2008)、産地からは病虫害や倒伏等に強い糯米品種が求められてきた。東北地域における主な糯品種である「ヒメノモチ」、「こがねもち」や「きぬのはだ」は耐倒伏性、あるいはいもち病圃場抵抗性が不十分であるため、これらの品種をもちいた糯米生産の安定多収化や低コスト化を狙った多肥栽培、直播栽培を行うことは困難であった。そこで、東北農業研究センターでは短稈で耐倒伏性およびいもち病圃場抵抗性が強い栽培特性の優れた糯品種である「ときめきもち」を育成した。

2 育成経過

「ときめきもち」は耐倒伏性が強い良質・良食味の糯品種の育成を目標として、良質・良食味の糯系統である「奥羽糯 391 号」を母とし、耐倒伏性が強い「奥羽直 376 号」を父とする交配後代から育成された(表 1)。2010 年の F₈ 世代から「奥羽糯 413 号」の地方系統名を付し、関係各県に配付して地域適応性を検討してきた。その結果、多収であり、耐倒伏性およびいもち病圃場抵抗性が強い東北地域向けの糯系統であったため、2014 年に「ときめきもち」と命名し、種苗法に基づく品種登録出願を行い、2016 年に品種登録された(登録番号: 第 25369 号)。また、2015 年に秋田県の産地品種銘柄に指定された。

3 特性概要

成熟期の稈長は“短”であり、「きぬのはだ」に比べ、やや短く、穂長は同程度かやや短く、穂数はやや多い(表 1、写真 1)。草型は“偏穂数型”である。ふ先色は“褐”、穎色は“黄

白”である(表 1、写真 2)。育成地における出穂期および成熟期は“中”であり、耐倒伏性は「きぬのはだ」よりも優れ、“強”である(表 1)。いもち病真性抵抗性遺伝子型は育成地での試験結果および前田ら(2005)の報告から“*Pia, Pii, Pik*”もしくは“*Pik-h*”と推定され、葉いもち圃場抵抗性、穂いもち圃場抵抗性ともに“強”である(表 1)。縞葉枯病に“罹病性”であり、白葉枯病圃場抵抗性は“やや強”、障害型耐冷性は“やや強”である。穂発芽性は“中”である(表 1)。収量は移植標肥栽培において「きぬのはだ」並であり、湛水直播栽培では標肥栽培において「きぬのはだ」並であり、多肥栽培では「きぬのはだ」よりもやや少ない(表 1)。玄米の粒形は「きぬのはだ」、「ヒメノモチ」に比べ、粒長がやや短く、粒幅はやや狭く、粒厚は同程度である(写真 2)。玄米千粒重は「きぬのはだ」よりもやや軽く、玄米品質は「きぬのはだ」並の“上中”である(表 1)。搗き餅の食味は「きぬのはだ」、「ヒメノモチ」よりも優れ、餅の硬化特性は「きぬのはだ」、「ヒメノモチ」よりも硬くなりにくい(表 1、写真 3)。

4 栽培適地及び栽培上の留意点

栽培適地は東北中部以南である。穂発芽耐性は不十分なので、適期刈り取りに努める。極端な多肥は倒伏の恐れがあるため、地力に合わせた施肥を行う。

引用文献

- 1) 前田一春, 三上泰正, 小林 渡, 小林健一. 2005. いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pik-h* と菌株の反応. 東北農業研究 58 : 5-6.
- 2) 宮入 隆, 佐藤 信, 三島徳三, 今野聖士. 2008. もち米の市場動向と産地対応 - 「日本一のもち米産地」名寄の方向性. 名寄市立大学・市立名寄短期大学道北地域研究所「地域と住民」 26 : 13-34 .

表1 「ときめきもち」の特性一覧表

品種名 組合せ	ときめきもち 奥羽糯391号/奥羽直376号				
特性	長所 1 耐倒伏性が強い。 2 いもち病圃場抵抗性が強い。 3 搗き餅の食味が良い			短所 1 穂発芽性が“中”である。	
栽培適地 調査地	東北中部以南 東北農業研究センター（秋田県大仙市）				
栽培条件（調査年次）	移植標肥区（2011～2013年）			直播標肥区（2011～2013年）	
品種名	ときめきもち	きぬのはだ	ヒメノモチ	ときめきもち	きぬのはだ
苗立ち率（%）	—	—	—	61.4	67.7
出穂期（月.日）	8.3	8.3	7.29	8.13	8.14
成熟期（月.日）	9.17	9.15	9.10	9.30	9.30
稈長（cm）	62	68	81	65	78
穂長（cm）	17.4	17.9	19.4	16.5	17.6
穂数（本/m ² ）	399	377	351	499	482
ふ先色	褐	褐	白	—	—
耐倒伏性	強	中	やや弱	—	—
倒伏程度	0.0	0.2	0.4	0.0	0.5
穂発芽性	中	やや易	易	—	—
耐冷性	やや強	中	やや弱	—	—
いもち病 遺伝子型	<i>Pia,Pii,Pik</i> もしくは <i>Pik-h</i>	<i>Pia</i>	<i>Pik</i>	—	—
葉いもち	強	中	強	—	—
抵抗性 穂いもち	強	中	強	—	—
精玄米重(kg/a)	64.0	62.5	56.9	61.6	62.7
玄米重標準比(%)	102	100	91	98	100
玄米千粒重(g)	22.1	24.0	23.2	21.4	22.5
玄米品質	上下	上下	上下	上下	上下
搗き餅の食味	上中	上下	上下	—	—
餅硬化速度（b/a）	0.83	0.20	0.29	—	—

注）移植区平均移植日：5月20日、直播区平均播種日：5月13日。移植、直播ともに施肥量は7.0kgN/10a。

直播は湛水条播栽培。倒伏程度は0(無)～5(甚)の6段階評価。餅硬化速度は、2012、2013年の平均値。長さ500mm、厚さ15mm、幅50mmに成形した餅を冷蔵庫内で21時間貯蔵後に釣りかけて下垂長(b)と両端の長さ(2a)を測定して算出した値。値が小さいほど餅硬化速度が速い。



写真1 「ときめきもち」の株標本

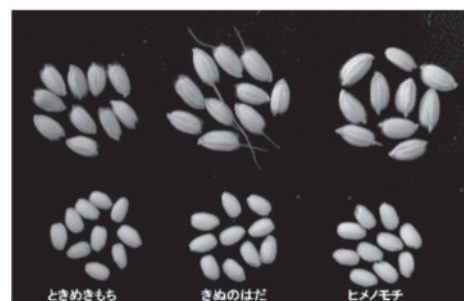


写真2 「ときめきもち」の籾及び玄米写真

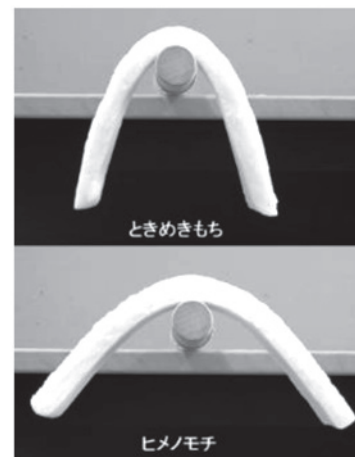


写真3 餅硬化特性試験による冷蔵貯蔵21時間後の状態